

「財産を相続に任せて、莫大の富を築いて、後世の世を理こうとするを、おとそ矛盾と思はし。」

林学博士、東大教授でありながら、一代で億万長者となった本多静六。じつは、彼こそが日比谷公園を設計、施工した人物です。莫大な富を社会に還元し続けた本多氏の人生哲学を、曾孫である遠山益氏が3回にわたって語ります。

第1回 1月14日(土)  
日比谷公園を創った男  
公園の中に図書館がある理由

第2回 2月11日(土)  
本多静六の金銭哲学  
巨万の富の作り方とその使い方

第3回 3月10日(土)  
本多静六の「アカマツ亡国論」  
3.11から一年 高田松原と防災理念

お茶の水女子大学名誉教授  
遠山 益先生  
会場 日比谷コンベンションホールB1F  
日比谷図書館文化館  
時間 14:00-15:30 (13:30より受付)  
参加費 各回1000円 (税込) 全3回  
お申込みは、電話 03-3502-3340、メール college@hibiyal.jp  
または後援1階受付カウンターにて。



本多静六の人生哲学  
2/3 本多静六の金  
銭哲学 ～巨万の富  
の作り方...



本多静六の人生哲学  
3/3 「アカマツ亡  
国論」～高田松原と  
防災理念～

イベント 終了しました

## 本多静六の人生哲学1/3 日比谷公園を創った男 ～公園の中に図書館がある理由～

キーワード	日比谷カレッジ
内容	<p>日本初の林学博士であり、東大教授でありながら、一代で億万長者となった本多静六。じつは、彼こそが日比谷公園を設計、施工した人物です。</p> <p>その敷地内に教育的施設が必要だと述べ、のちに日比谷図書館が建つことになりました。</p> <p>莫大な富を社会に還元し続けた本多氏の人生哲学を、曾孫である遠山益氏が3回にわたって語ります。</p> <p>第1回 日比谷公園を創った男 ～公園の中に図書館がある理由～ 第2回 本多静六の金銭哲学 ～巨万の富の作り方とその使い方～ 第3回 本多静六の「アカマツ亡国論」～3.11から一年 高田松原と防災理念</p>
日にち	2012年01月14日(土) 14:00から15:30
日にち説明	全3回のうち第1回(13:30より受付)
場所	日比谷コンベンションホール(大ホール)
関連ファイル	<a href="#">巨万の富を築いた男・本多静六の人生哲学ポスター</a>
定員	200名(先着順・定員になり次第締切り)
対象	どなたでも

参加費用	各回1000円（当日支払）																																										
講師・出演者	遠山 益（お茶の水女子大学名誉教授 理学博士）																																										
プロフィール	お茶の水大学名誉教授(生物学)。本多静六縁戚。1930(昭和5)年、福島県会津若松市生まれ。54年、東京教育大学理学部生物学科卒業。62年、同大学大学院博士課程修了、理学博士。70年から2年間、カリフォルニア大学ポストドクトラルフェローとして渡米。74年、お茶の水女子大学助教授となり、のち教授に。96年、定年退官。その間の85年には文部省在外研究員として英オックスフォード大へ派遣される。98年から2004年まで聖学院大学教授をつとめた。																																										
主催	日比谷図書文化館																																										
問い合わせ先	日比谷図書文化館 電話:03-3502-3340																																										
申込期間	2011年11月23日 10:00 から2012年01月14日 14:00																																										
申込方法	電話：03-3502-3340（4F 施設事務室）、メール：college@hibiyal.jp、窓口：当館1階受付カウンターまで。氏名（漢字・読み仮名）、電話番号をお伝えください。																																										
カレンダー表示	<div style="text-align: center;">2012年 01月</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>30</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p> <input type="checkbox"/> イベント開催日  <input type="checkbox"/> 休館日 </p>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
日	月	火	水	木	金	土																																					
1	2	3	4	5	6	7																																					
8	9	10	11	12	13	14																																					
15	16	17	18	19	20	21																																					
22	23	24	25	26	27	28																																					
29	30	31																																									
発信日	2011.11.16																																										

ツイート

©2011 Hibiya Public Library. All Rights Reserved.